

発表演題:PRGF の臨床における使用例

著者名:渡辺 泰典

抄録:

演者は PRGF を臨床で使用してから約 7 年になります。基本的に PRGF は 1990 年代前半のアメリカの Dr. Marx RE の PRP の発想から、1990 年代後半にスペインの Dr. Anitua E によって開発され、白血球を除いた血小板血漿成分を濃縮するようにシステム化されたものと考えていいと思います。その後 2012 年頃に PRGF は PRGF-Endoret®になり、使用方法も若干変わりました。しかし白血球を含まずに多血小板血漿を濃縮するというコンセプトは変わらずに操作方法をより簡便にするように進化しています。その辺の紹介と臨床における使用例を紹介します。また、インプラント埋入時に PRGF- Endoret®を使用する場合、埋入窩形成時に自家骨を採取したものを混ぜるとさらに効果は増します。その自家骨を補てん材とし、活性化前の PRGF- Endoret®の fraction2 を混ぜた後に、塩化カルシウムにより活性化し血小板から増殖因子の脱顆粒を即し骨造成に有利に働くと Dr. Anitua E は説明しています。演者もそれらの使用法により、より自家骨と濃縮された血小板からの増殖因子により骨造成が行いやすくなっていると考えています。一方、この一連のシステムで少血小板血漿(PPP)成分を fraction1 として分画し、更に塩化カルシウムにより活性化して膜状に使用することも PRGF-Endoret®システムでは推奨しています。これは軟組織の創傷治癒促進を狙っていて、2000 年代前半に Dr. Choukroun J らが発表した PRF の発想に近い使い方ができると思います。この度はそれらの臨床例をいくつかお示しし、今後の再生医療のヒントとなれば幸いです。